

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:111.

視覚障害者にやさしい環境を整える  
病棟内の表示や物に注目して

小澤和永、内桶園己、中林美鈴、古内由美子

## 視覚障害者にやさしい環境を考える 病棟内の表示や物に注目して

8階東ナースステーション ○小澤 和永、内桶 園己、中林 美鈴、古内由美子

### 【目的】

眼科の病棟は、他の病棟と違い視覚障害に対する配慮が必要である。しかし、実際は患者から「部屋番号やトイレの表示が小さい」といわれる事があった。眼科病棟に入院してくる患者は環境に対して不自由を感じているのではないかと思い、もっと多くの患者に意見を聞き改善できる点はないかアンケートをとった。

### 【方法】

- ①入院中の患者 50 名にアンケートを実施する。
- ②患者の思いを抽出する。
- ③研究者は抽出した内容から実施可能な改善策を考察する。

### 【結果】

視覚障害の程度によっては、廊下の壁が薄茶で手すりが茶色では、手すりがあることに気がつかない。各部屋の入口にトイレがあっても、ドアの場所は確認ができな

い。日にちや曜日の確認をしたくてもカレンダーの数字が小さくてみえない。テレビカード自動販売機の場所がわかりにくい。との回答があった。また視力の良い人は明るい色を選択し、視力の悪い人ははっきりした色を選択している。

### 【考察】

視力障害者の見え方は様々であり、視覚障害の程度により、明度を重要視する人と彩度を重要視する人の違いがあった。対策には、まず明度対比、彩度対比、色対比と考えられ、明度と彩度の工夫が必要である。

### 【結論】

入院患者は、視力の程度が様々であり、単に白黒のコントラストが良いとは限らず、視力障害者の満足度を生かしつつ、入院生活が重くならない環境も必要である。患者の目線にたつての環境を今後も考えていきたい。